



令和8年度企画展Ⅱ

黒崎義介 童話の世界



《きつねとくま》1979年

童画家として活躍した黒崎義介の展覧会を開催します。

「僕の全生命は童画である」と宣言し、保育絵本『キンダーブック』や『コドモノクニ』を中心に多くの童画作品を発表してきた黒崎義介。1952年に藤沢へ転居し、地域児童のための絵画教室や墨絵教室を開くなど地域に貢献しました。

数ある藤沢市所蔵作品の中から、今回は“童話の世界”をテーマにレトロでかわいい黒崎の童画作品をご紹介します。

日 時 10月10日（土）から12月20日（日）まで
午前10時～午後7時（入場は午後6時30分まで）
（休館日 月曜日※ただし11月23日（月・祝）は開館、翌火曜日休館）

場 所 藤沢市アールスペース（JR辻堂駅北口から徒歩5分）
観 覧 料 無料

展示内容 『キンダーブック』、『コドモノクニ』に掲載された原画作品はもちろん、黒崎義介のオリジナル絵本『クロサキ工本』の原画も展示。
朗らかな世界観とかわいいキャラクターたちをお楽しみください。
また藤沢を舞台にした『ふじさわのむかしばなし』作品も展示。
温かな画風による地域ゆかりの物語をご紹介します。

※関連イベントの詳細は別紙チラシをご覧ください。

裏面に続く

本展の見どころ

1. 80点以上の原画を展示

近年、昭和レトロブームの広がりとともに、保育絵本の温かみのある表現が改めて注目されています。本展では、戦前・戦後の時代の変化の中で児童文化を支えた黒崎の童話世界を、貴重な資料とともに豊かな色彩の原画約80点でたどります。

2. 『クロサキ二本』、『ふじさわのむかしばなし』原画をご紹介

愛らしさいっぱいのかぐまシリーズなど、文も絵も完全オリジナルの『クロサキ二本』の原画を展示します。また、藤沢に伝わる昔話を絵に描き起こした『ふじさわのむかしばなし』の原画も紹介。映像資料とともに、藤沢市の文化教育に尽力した黒崎の軌跡をご覧ください。

作家紹介



くろさき よしすけ
黒崎 義介

1905年3月25日、長崎県平戸市に生まれる。16歳から上京するまで毎年夏休みを利用し、幼稚園を借りて個展を開く。1926年、上京し川端画学校に入り8か月で修了。1927年、中央美術展に《鞠つき》を出品し初めて公募展入選。1936年、童画『キンダーブック』『コドモノクニ』などに発表。1949年、童画研究会を主催。1971年、ニューヨーク市にて「日本むかし噺し童画展」を開催。主な絵本の仕事として、「かさじぞう」「きつねとくま」「こびとといもむし」など。

藤沢市には1952年に転居し、地域に根ざした創作活動や指導を行いながら、1984年8月に逝去するまで過ごした。

藤沢市アールスペース／愛称 FAS（エファース）は美術振興施設として2015年にココテラス湘南に誕生しました。展示だけでなく、作品制作ができるレジデンスルームを併設しているのが特徴です。公募による展覧会のほか、地域ゆかりのアーティストによる展覧会、市所蔵作品などの展示、また子どもから大人までが参加できるワークショップなどを開催しています。



【この資料に関する問い合わせ】

藤沢市役所 生涯学習部 文化芸術課
藤沢市アールスペース 担当：吉田 石井
内線：6411 直通：0466(30)1816